

初期の格差とライフイベント

——東大社研パネル調査 (JLPS) データの分析 (1) ——

東京大学 石田 浩

1 目的

本研究は、生まれにより決定されるライフコースの初期段階での格差が、その後のライフイベントにどのように影響を与え、連鎖・蓄積されていくのかを、東京大学社会科学研究所が実施している「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」(Japanese Life Course Panel Surveys)を用いて分析する。この報告では、全国調査の概要を紹介するとともに、出身家庭の社会・経済的背景に関する多様な要因が、その後のライフコース(離家・結婚)にどのような影響を与えているのかを分析する。

2 方法

データは「2015年社会階層と社会移動(SSM)調査」と「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」(JLPS)を用いる。JLPSの第1波調査は、日本全国に居住する20-34歳(若年パネル調査)と35-40歳(壮年パネル調査)の男女を母集団として対象者を性別・年齢により層化して抽出し、2007年1月から4月にかけて郵送配布・訪問回収方法により実施した。若年調査は3367票(回収率34.5%)、壮年調査は1433票(同40.4%)を回収した。その後対象者を毎年同時期に追跡し、第12波までの調査を実施している。この調査では、交際、結婚、出産などの項目は毎年欠かさず情報を収集している。回答者の多様な社会的背景に関する質問もしており、本分析ではこれらの項目を利用し、節目のイベントとして離家、結婚を取り上げ、それらへの影響力を分析した。

3 結果

本調査に含まれる回答者の出身家庭の社会・経済的背景に関わる父母学歴、父母階層などの変数に加え、広範な出身家庭の要因(暮らし向き、本の数、資産、暖かい家庭であったか、両親の失業経験・離婚経験など)を用いて、出身家庭・社会的背景による格差・不平等を指標化する。これらの要因は、すでに多くの研究が指摘してきた社会経済的達成(職業的地位・所得)に加えて、離家、初婚という大人への移行を形成する重要なライフイベントに影響を与えている。

4 結論

人々が経験するライフイベントは、生まれ落ちた出身家庭の広範な経済・社会・心理的要因に総合的に影響を受けており、育ってきた家庭の多様な要因を考慮に入れることが重要である。従来の階層研究で取り上げられてきた職業や所得などの社会経済的達成に加えて、離家や結婚という大人への移行のメルクマークとしてのイベントへの影響を検証することで、初期段階での有利さ・不利さ(格差・不平等)がその後のライフコースの中で継続・連鎖されていく過程が明らかになった。

【謝辞】

本研究は、日本学術振興会(JSPS)科学研究費補助金・特別推進研究(25000001, 18H05204)、基盤研究(S)(18103003, 22223005)の助成を受けたものである。東京大学社会科学研究所(東大社研)パネル調査の実施にあたっては、社会科学研究所研究資金、株式会社アウトソーシングからの奨学寄付金を受けた。パネル調査データの使用にあたっては東大社研パネル運営委員会の許可を受けた。